

**第2回**  
**西予市都市計画マスタープラン等検討委員会 概要**

日時：平成29年3月7日（火）15時～

場所：末光家住宅

（卯之町地区重要伝統的建造物群保存地区）

**■議事次第**

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 前回委員会のおさらい
4. 総合計画説明資料の視聴
5. 議事（グループワーク）
  - ・西予市の伸ばすところ、変えたいところ
6. その他
7. 閉会

**■配布資料**

会議次第

資料1 第2回検討委員会資料

資料2 現行の西予市都市計画マスタープランの構成と実際の取組

資料3 西予市の課題について

資料4 西予市の課題と将来像について（グループワーク）

参考資料1 グループワーク用ワークシート

参考資料2 グループワーク用図面

## ■議事

### 1. 開会

事務局より、開会の宣言。

### 2. 委員長あいさつ

委員長よりあいさつ。

(委員長)

- ・年度末のお忙しい時期にお集まりいただき、ありがとうございます。
- ・今日はいつもの会議室ではなく、このような場所でグループワークを行うこととなりました。私自身、初めて末光家住宅の2階に上がりました。このような場所で行うということで、西予市ならではの意見が出るのではないかと考えています。
- ・今回は、西予市の強みと課題を話し合う会になります。都市計画マスタープランの方針につながるものであり、非常に大事な会となっていますので、よろしくお願ひします。

### 3. 前回委員会のおさらい

事務局より、都市計画マスタープランの主旨・位置付け等について(資料1)、現行の西予市都市計画マスタープランの構成と実際の取組について(資料2)それぞれ説明。

### 4. 総合計画資料の視聴

第2次西予市総合計画の資料映像を視聴。

### 5. 議事(グループワーク)

事務局より、事務局が認識している課題について(資料3)、グループワークの進め方について(資料4)それぞれ説明。

#### 【グループワークの実施】

※グループワークの結果は別途「グループワーク結果A班／B班」を参照。

#### 【委員長 講評】

委員長よりグループワークの講評。

(委員長)

- ・A班、B班とも沢山の議論があり、ほぼ西予市が抱えている課題等が網羅的に示されたの

ではと感じました。

本日の議論の中で、私が気づいた点を3点、お話ししたいと思います。

・まず1点目、西予市の「強み」に関しては、A班・B班ともに自然環境、文化や人等、地域資源は豊富だという話がありました。

しかし、それが活かされていないと感じられているようです。

・A班では、市域が広いということから、1つの農作物を栽培する場所を段階的に変えることで、半年間くらい収穫し続けることができるといった話がありました。

要するに、地の利を活かしたエリアマネジメントに関わるとは思いますが、エリア全体で何か産業を推進していく、エリアで連携して進めていくということが、合併してから未だにできていないという課題があると思いました。

・B班では、資源を活かす、という話でレストランやセレクトショップを開くという話がありました。

素材は素晴らしいけれども、それをどう活かすのか、どうお金に変えていくのか、どうPRしていくのか等、うまくできていないという話とします。

要するに、せっかく良い資源があるので、しっかりブランディングできれば盛り上がっていく、というような議論だったかと思いました。

・次に2点目、西予市の「課題」に関しては、やはり空き家と公共交通の問題はA班・B班ともに出ていたかと思えます。

この2つの課題は、今後10年間でさらに深刻化するだろうと思われまふ。空き家に関しては、公表では15%程度が空き家と思えますが、これと別に「空き家予備軍」というものがあつて、今後10年で空き家が倍増する懸念さえあります。

おそらく、現行の都市計画マスタープランでは、「空き家」はそれほど大きなキーワードではなかつたと思えます。新しい都市計画マスタープランには位置付けなければならないと思えますが、これも行政だけで取り組むには難しいので、地域の中で、なんとか空き家を利活用していく方向に持って行かなくてはけません。

松山市では三津地域等が上手くいっていますが、それも行政だけではなく、地域住民と一緒に進めているので、そういう事例を参考にしながら進めていく必要があると思えます。

・公共交通については、今後、車を運転できない高齢者の方が増える恐れがありますので、何とか対処しなければけません。

A班・B班ともに出ていたのは、公共交通サービスの充実も大事な一方、やはり利用促進が重要になります。「モビリティマネジメント」という言葉があつて、「モビリティ」＝移動のマネジメントが行政でも進められつつあります。

愛媛県ではあまり事例はありませんが、サービス水準は変えずに利用率を上げるために、心理学等を援用しながら、徹底的にPR活動を進めるといったものです。

そういったモビリティマネジメント等にも取り組むことで、成果が大きく変わるのではと思えました。

・最後に3点目、今後のやるべきことは、やはり行政と住民が協働して取り組まなければなりません。

先ほど申し上げたエリアマネジメントやブランディング、空き家対策、公共交通の問題等、

行政だけで取り組むには限界があります。当然、高速道路の無料化や区画道路の整備等は行政が中心となるべきですが、多くの分野で住民と行政が協働で取り組まなければ、課題は解決できないかと思います。

その辺りを都市計画マスタープランにもきちんと位置付けなければならぬと思いました。以上になります。どうもお疲れ様でした。

## 6. その他

事務局・安田係長より、次回の予定は決まり次第連絡することを報告。

## 7. 閉会

事務局・水野課長補佐より、閉会のあいさつ。

以上